

「SDGs×日本企業～技術から迫る国際保健～」

日本国際保健医療学会・学生部会(jaih-s)とは「国際保健医療に関わる人材育成」に取り組んでいる学生団体です。全国の国際保健医療に関心を持つ様々な分野の学生に対して、幅広い情報や機会の提供を行い、将来、世界で活躍する人材を育成することで日本及び国際社会への貢献を目指す活動は、国内外の健康につながる人材の育成を事業目的の一つに掲げる公益社団法人日本 WHO 協会の考えと一致するものです。この趣旨を踏まえて、第8回目となる共催企画フォーラムを2018年9月29日に大阪市立大学文化交流センターで「SDGs×日本企業～技術から迫る国際保健～」をテーマとして開催いたしました。



開催挨拶 (公社)日本 WHO 協会理事長 中村安秀

日本国際保健医療学会・学生部会(jaih-s)と公益社団法人・日本 WHO 協会の共催によるフォーラムも今年で8回目を迎えることになりました。従来から、jaih-sの皆さんがテーマの選定、講師の先生方へのご依頼や連絡、ワークショップの内容など、企画・運営を自分たちの責任で行ってきました。私たちの協会は、資金面での支援や会場探しの支援をするだけで、フォーラムの内容に口を出さず、いわば裏方に徹してきました。2018年度も、jaih-sの皆さんがすばらしいチームワークのなかで斬新で未来志向の企画を考えてくれました。2015年9月の国連総会で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)では、貧困、教育、保健医療、ジェンダー、環境などすべての領域にわたり、世界各国の政府や企業、市民社会が協働することが求められています。とくに、今後は、政府や大学だけでなく、民間企業が長く蓄積してきた技術や経験を基盤にして、グローバルヘルスの分野で新しい挑戦を切り拓くことが期待されています。このjaih-sの企画に賛同し、ご登壇を快諾していただいた民間企業や大学の皆さま方に、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。これだけ多くの企業の方が一堂に会し、SDGsについて語る機会は決して多くありません。本フォーラムに参加された皆さま方には、日本の

企業や大学がもつ技術力の高さと可能性を感じていただけたら幸いです。このフォーラムが、参加者の皆さま方、ひとりひとりにとって新たな出会いと学びの場になりますように…ここから期待しています。

jaih-s 代表挨拶 jaih-s13 期企画班代表 武田亮平

本フォーラム開催のきっかけとなったのは、国際保健という学問に対して総じて熱意のある、各班員の疑問からスタートしました。国際保健には必ずしも医療従事者のみが関わっているわけではない、日本の企業の取り組み、その背景や実態はどのようになっているのだろうか、国際保健の問題に対してのビジネスの視点にはどのようなものがあるのか。班員のこれらの疑問が動機となり、本日まで、ご登壇いただきます先生方、公益社団法人日本 WHO 協会様といった、多方面からの多大なるご協力を頂きながら、この企画を開催するお運びとなりました。また、本日は、医療系の学生の方だけではなく、様々な分野、ご経験をお持ちの方々に参加いただいております。本日のこの機会に、共に国際保健について学び、考えることができること、運営委員一同大変嬉しく思っております。本日が皆様にとって有意義な機会となるよう、運営委員一同、最後まで頑張ってお参りますので、どうぞよろしくお願いたします。